



私が思う、
北区の魅力・好きな場所

自然がいっぱいなところがいいと思うし、のどかで落ち着いた雰囲気が感じられるのが魅力。人口が多いので、活気にあふれている感じもあります。(池谷美友副部長)

札幌創成高等学校 太鼓部

同好会を経て1992年に創部。2006年から全国大会に連続出場する強豪校で、テレビなどメディアで何度も紹介されている。

部を代表してインタビューに答えてくれたのは、2年生の河合ひなた部長と池谷美友副部長。2人とも、入学するまで太鼓は生演奏もほとんど聞いたことがない初心者でした。「部の見学大会に行つたときに、先輩たちが見せてくれた演奏の迫力にすごく感動したんです」。内臓まで震えるような太鼓の音にすっかり魅了され、すぐに入部を決めました。バチの握り方や手首の使い方、腕の上げ方、たたく角度などで繊細に音を変化させる太鼓。「入部して2年経ちますが、理想の音を出せているとはまだ思えません」と笑つ2人。それでも基礎練習を地道に重ね、プロからの指導を受けることで、少しずつ自分の出す音が変わってきたと感じているそう。

校外での演奏も少しずつ再開されはじめた今、入学時からコロナ禍だった部員にとって、出張演奏は初体験。「緊張もあつたけど、楽しみの方が強かつたです。設備の整わない舞台も少なくないため、太鼓の配置やたたき方の調整も当日現場で行います。「6月に行われたティネットレイルは、屋外だったのでお互いの音が聞こえにくくて大変でした」と苦笑いしますが、苦労話もどこか楽しそう。お客さんのダイレクティブな反応が喜びだったと話します。9月10日には北区の「認定こども園はなぞの」で園児たちを前に演奏。音に驚いて最初は耳をふさぐ子もいましたが、最後まで真剣に聞いてくれたそう。「気持ちの伝わる演奏をお届けしたい。いろいろな場所でもっと機会をいただけたらうれしいです」。11月の全道大会で2023年の全国大会出場を決め、さらに気合が入っています。



リズムや音だけでなく、振り上げる腕の高さや目線も重要。練習ではお互いを厳しくチェックしながら、さらなる高みを目指します

CASE.06

Town planning
in North

札幌創成高等学校 太鼓部

ふりまく

街中に活気をふりまく“つき”の世代

感動を与える演奏で太鼓の魅力をお届けしたい。
身体と心に響く
迫力いっぱいの音とパフォーマンス。



放課後の練習場からは、波動が身体を突き抜けるような力強い太鼓の音に加えて、時折、威勢のいい掛け声も聞こえてきます。その音を奏でているのは札幌創成高校太鼓部。高校の郷土芸能大会(※)で毎年全国大会に出場し、STVの人気番組で紹介もされるほど実力派の部活です。日々の練習のほかに、月に1〜2度、太鼓のプロプレイヤーによる指導を受け、さらに技術を磨いて質の高い演奏を目指して励んでいます。その実力から、北区の成人式やお祭りなど、校外での演奏を依頼されることも多く、迫力いっぱいのパフォーマンスが、観客を引きつけてきました。コロナによる自粛を経て、2022年から校外に招かれての演奏も少しずつ再開されています。10月末に東京で開催された全国大会後に3年生が引退し、現在は2年生10人、1年生16人の計26人で活動中。これからも部員一丸となって真剣に太鼓に向かっていきます。

(※) 全国高等学校総合文化祭 郷土芸能部門